

FAQ（よくある質問）

Q. 4月・5月の足元の状況（コロナの影響）について教えてください

冷蔵倉庫事業

- A. 外食業界の営業自粛、休校に伴う給食の停止等により、本来例年であれば出庫される荷物が出ていかず、在庫率を押し上げています。コンテナの遅れなどで入庫にも遅れが出ていますが、一方で他のお客様から新たな荷物保管の依頼を頂いています。昨年より畜産品の在庫が増えており、今後も急激な在庫の減少は考えにくく、多少荷動きが悪化したとしても保管料収入は堅実なことから、大きな影響は無いと思っております。

食品販売事業

- A. 主力販売先の一つである外食業界の営業自粛により、取扱量が減少しています。さらに業界全体が取扱量を減少させたため需給が悪化し、相場の下がった商材が発生しています。当社が力を入れる輸出事業についても、販売先の現地加工工場が人手不足で稼働ができない等の理由で、取扱量は減少しています。一方で、1月に行われた連結子会社の㈱アライアンスシーフーズ、㈱クローバートレーディングの吸収合併に伴い、3月まで在庫整理を進めていたため、損失を抑えることができています。今後は緊急事態宣言解除後の6月～8月の動きがカギになると考えられます。

ノルウェー養殖事業

- A. 説明会資料に記載の通り、空輸のストップや各国のロックダウンによってサーモン相場が弱含みになり、5月初旬頃まで単価が下がっていました。また、シーライス（寄生虫）の発生や低海水温による成長の遅れも懸念されていましたが、サーモン相場は5月中旬から底値を脱し、水揚げ量についても昨年並みのペースに近づいています。

Q. 1月に行った連結子会社の吸収合併の効果は

- A. 1月に組織運営の効率化、コーポレートガバナンスの強化を図ることを目的に、上述の通り吸収合併及び販売部門の組織改編を行いました。これにあわせて、子会社とヨコレイにあった重複在庫を整理し、スリム化を図りました。結果、商品在庫は253億円から167億円となり、それに伴う諸経費も削減できました。現在、次期部門中計の策定中ですが、大幅な組織の改編によって部所間の情報伝達・意思決定力も向上しております。

Q. 社内冷蔵倉庫利用分（説明会資料9ページ、11ページ）とは何ですか

- A. 食品販売事業部門が社内の冷蔵倉庫を使用した際の保管料・荷役料をはじめとする請求金額です。今回の場合、食品販売事業部門の預けている荷物が昨年より減少したため、冷蔵倉庫事業ではマイナス要因となりましたが、食品販売事業では同額がプラス要因となっています。

Q. 冷蔵倉庫事業の営業利益増減要因（説明会資料9ページ）その他経費（+70百万円、▲123百万円）の主な要因について教えてください

- A. プラス要因については動力費の減少と消耗備品費の減少等によるものです。マイナス要因については通関サービスの増加に伴う通関経費の増加や、作業費、厚生費の増加等によるものです。

Q. 食品販売事業の営業利益増減要因（説明会資料11ページ）営業経費（▲133百万円）の主な要因について教えてください

- A. ノルウェーの養殖施設追加投資に伴う減価償却費の増加と、同施設の従業員の人件費の増加が主な要因です。

Q. フリーCF（説明会資料 13 ページ）について

- A. 当第2四半期のフリーCFは▲69百万円と、ほぼプラスマイナスゼロに近い数字となっております。これは、営業CFが+82億円だったのに対し、投資CFが▲83億円だったためです。投資CFの内訳は、設備のメンテナンス・改修等事業継続のための投資が約1/5で、残りは成長のための投資となっております。冷蔵倉庫事業は、現在業界全体が慢性的な保管場所不足と、施設の老朽化問題、フロン冷媒問題を抱えており、当社はその対策として計画的な冷蔵倉庫の新設を行っております。これらの投資は、今後5年後、10年後の利益装置となるものであり、今後も自己資本比率40%以上等安定した財務基盤を維持しつつ、持続的な成長のため投資を行ってまいります。

Q. 株主還元に関する考え方について

- A. 株主還元に関して、当社は引き続き、安定的な配当を続けてまいります。当社は上場以来58年間一度も減配することなく、緩やかですが増配を続けてきました。今期はコロナのため、厳しい状況が続いていますが、当初の予定通り、年間23円の配当を行う予定です。